

2月の園だより

学校法人志賀学園

平第二幼稚園

平成30年2月1日

最強の寒波の影響で、記録的な豪雪や過去最大のインフルエンザ流行のニュースが取りざたされています。とは言うものの、子どもたちは雪が降ると「やったー、雪だ！雪だ！！」と大喜び。“子どもは風の子、元気な子”、大人も見習いたいものですね。

2月3日は節分。節分とは季節の分かれ目という意味です。旧暦では「立春」一年の始まりの前日ですので大晦日となり、今までの厄を祓い、新しい一年の幸せを願います。節分には「福は内、鬼は外」と豆をまいて、鬼を追い出し、福を呼ぶ行事であります。一般的に豆まきの豆は、どうして大豆(現在は落花生をまくご家庭も多いですが)なのでしょう。大豆には、ぐんぐん伸びていく強い力があります。それで、魔物や毒に勝つ不思議な力があると信じられていました。実際、肉や魚に負けない素晴らしい栄養があり、自分の年の数より一つ多く食べると病気をしないとされています。当日は子どもたちが個性豊かに作った鬼のお面と、落花生が入った角箱を持ち帰りますので、ご家庭でも豆まきを行って下さい。

さて、先日廊下で「エーン、エーン」と大きな声で泣いているさくら組の女の子たちがいました。理由を聞いてみると「Aちゃんが、Aちゃんが…」と泣きじゃくるばかりです。担任の先生に話を聞いてみると、Aちゃんがお母様の実家(ニュージーランド)に一時帰宅されるということで、卒園前にお別れすることになりました。その日はAちゃんと過ごす最後の日で、「Aちゃんだーいすき。」「元気でね！また会おうね。」と伝言ゲームをしたりして遊びました。お帰りの時に、みんなで輪になって手をつなぎながら、コンサートで歌う予定のうたを歌っていると、Aちゃんが涙を流し、それから次々とみんなで泣き始めたそうです。Aちゃんはみんなのお姉さんの存在で、病院ごっこではよくお医者さんの役になって、聴診器を当てたり注射を打つ真似をして元気に遊んでいました。3月の末にはまた帰国し、4月から小学校に通いますし、運動会やOB宿泊などで、またお会い出来ることと思いますので楽しみにしています。

また、2月は一年の締めくくりの行事「わくわくキッズコンサート」があります。各学年に合った歌や合奏に取り組みます。もも組さんは、歌や楽器に触れ合う楽しさを感じ、ばら組さんでは初めて触れ合うメロディオンに親しんで来ました。すみれ組では全員がメロディオンの基礎となる曲を弾きますが、子どもたちは登園してくるとすぐに練習に取り組み、とても興味を示していました。“てのひらをたいように”の歌の中に出てくる「おけらって何？」“めだかの学校”を歌うと「めだかはお部屋にいるよね！」と歌詞にも興味を持って歌っていることに成長を感じています。さくら組さんは、みんなで心と音を合わせて歌や演奏を披露し、これまでの幼稚園での音楽活動の成果を発揮してくれることと思います。幼稚

園は人格形成の基礎を築いています。今回のコンサートの取り組みを通して、音楽が好きになるきっかけになってくれればと思います。

当日は、どうぞ温かいまなざしでお聞きいただき、たくさんの拍手をお願い致します。